

イトアップ



300発の花火が夜空を彩った

3300発が夜空を彩

延岡

きたうら納涼花火大

毎年8月16日に開催される同町の夏の風物詩。今年も大勢の家族連れなどが会場に足を運び、花火をはじめ多彩な催しを楽しんだ。

会場では、午後3時からステージイベントがあり、地元の北浦中学校生徒による「南中ソーラン」や市振神楽保存会の北浦神楽、歌謡、フラなどが披露された。日が沈み始めると、地元の灯船によるライトアップも行われ、祭りに花を添えた。

花火の打ち上げは午後8時から始まり、さまざまな花火や、尺玉、海上花火が澄んだ夜空を色鮮やかに染め上げ、会場は大きな歓声に包まれた。

毎年夫婦で訪れているという日向市の黒田学さん(61)・恵津子さん(64)夫妻は、「細島や門川もそうですが、やはり海と花火のセットは魅力的。また来年も来ます」とお祭りを満喫した様子。派手なパフォーマンス

は「北浦の風物詩」として霧閉気がとても気に入りました。地元の方々と交流もできてよかったです」と話した。



北浦中生徒による南中ソーラン



和太鼓道場「巴塾」の太鼓演奏

門川湾クルージング

乙島、枇榔島巡る4コース 門川

町観光協会／町渡船組合 9月30日まで 試行

門川町観光協会と門川町渡船組合は今年から、「門川湾クルージング」の試行を開始した。9月30日まで乙島や枇榔(びろう)島を巡る4コースで試行を重ね、年内の本格運航を目指す。

観光資源である門川の「画。門川港と庵川港、門海を広くPRしようと、川海浜総合公園西側の渡船組合などが初めて企

すれから出港し、約3

た。門川湾の魅力を紹介できる最長コースでは、門川港からほど近い無人島「乙島」や約7キ沖の「枇榔島」など約15キのコースを1時間15分ほどで回遊できる。

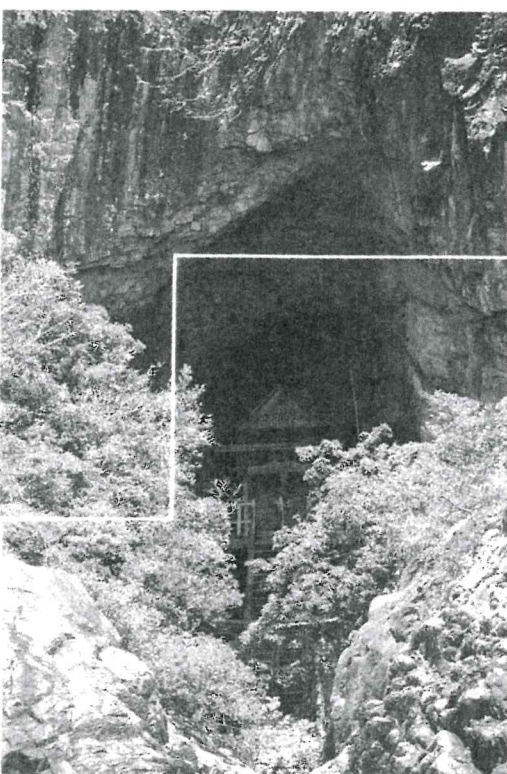
乙島では、南側にある高さ14・4ミ、幅8ミ、奥行き63ミの「茶屋の大門」をはじめ大小七つの海食洞が見どころ。大小二つの島からなる

枇榔島は、カムリウミスヌメの世界最大の繁殖地。タイミングが良ければ春先にはベンギンに似た愛らしい姿を見ることができ。磯釣りのA級ポイントとしても有名な多くの釣り人でにぎわっている。

遠見半島の東端では柱状節理の断崖絶壁にある



枇榔島について説明する観光協会の大石事務局長



「岬権現」は岩場の洞窟に「社」が祭られている

「岬権現」岩場の「首」など洞窟の中には趣のある「社」や鳥居が祭られており、海上からしか見ることができない自然の名所が点在する。

観光協会の大石隆治事務局長は「船でなければ行けないので地元の人たちでも知らない場所がある。門川の自然を真内外、世界に広めていきたい」と話す。

コースや料金の問い合わせ、申し込みは門川町観光協会(☎080・2795・5543)へ。

今年も日向市民と交流

石神山ミュージックキャンプ

20日
まで

バイオリニストの古澤さん

8/18

日向市民と長年交流を深めているバイオリニスト古澤巖さん(59)が指導する音楽スクール「石神山ミュージックキャンプ」が、きょうから同市の旧美々津小学校田の原分校で始まった。20日まで。



古澤さんから個人レッスンを受ける男児(きょう午前)

各種楽器の演奏のレベルアップや、コンサートなどでの演奏テクニックを一流の演奏家から学ぶ貴重な機会として恒例になっており、今年で7回目。今年の参加者は、幼稚園児から60歳代の主婦まで12人。県外が中心で、遠くは神奈川県からの参加もあり、7回連続の受講生も。また、地元・富島高校吹奏楽部の部員22人が団体として初めて参加している。

初日のきょうは、午前9時すぎから開校式があり、古澤さんは「この機会に何でも構わないのでいろいろと聞いて。3日間、ぜひ楽しんでほしい」と優しく呼び掛けた。受講生たちは、市内のホテルに宿泊しながら同分校でレッスンに励む。古澤さんをはじめ、受講生から毎年年気なのが昼食に並べられる地元・田の原地区の食材を使った田舎料理。同地区出身で、「みやさきの食と農を考える県民会議」認定の食育ティーチャー安藤るみ子さん(67)「同市東郷町寺迫」や、地元の人たちによる「田の原『いきいき集落』運営委員会」、古澤さんの

ファンでつくる「日向・古澤巖の会」のスタンプが手作りして振る舞っている。きょうは地元の野菜たっぷりのカレーライスが提供されるほか、あすは竹で作った長さ10センチの台で湧き水を使った流しそうめんを楽しみ、受講生や地元の人たちとの交流を深める計画もある。また、地元の人たちへの感謝の気持ちを込め、最終日の20日午後1時30分からは受講生がレッスンの成果を披露する発表会、同3時からは古澤さんによる里山コンサートが行われる。いずれも入場無料。